

町の家計簿を公表します

町民の皆さんが納める税金や国・県からの補助金は、私たちの生活をよりよくするためにいろいろな形で使われています。

これらがどれくらい納められ、どのように使われているかを知っていただくために、平成19年度の決算を報告します。歳出は、目的別と性質別に分けてお知らせします。

一般会計決算の概要

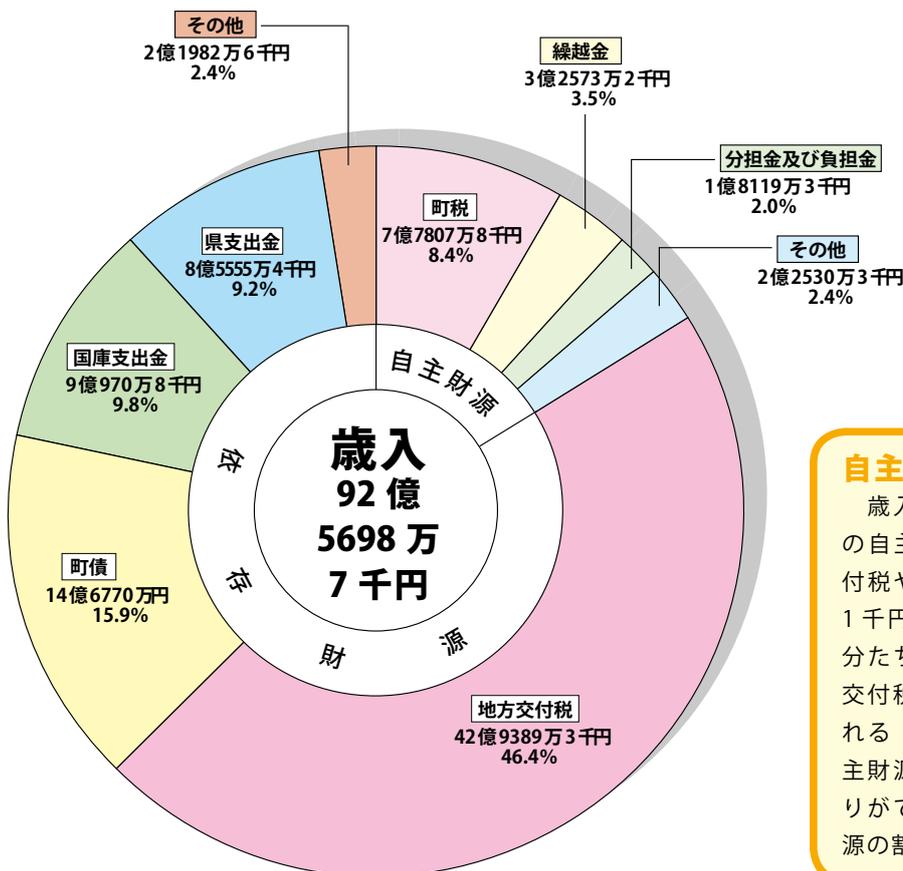
平成19年度は、市町村合併2年目にあたり、大変厳しい財政環境の中ではありましたが、長島町総合振興計画や各種振興計画に基づき、地域福祉の充実、住民に身近な社会資本等の整備や自主的、主体的な地域づくりなどを積極的に実施しました。

決算収支の状況は、歳入総額92億5699万円、歳出総額90億1403万円、歳入歳出差引は2億4296万円で、単年度収支はマイナス7261万5000円となりました。

歳出では、町道整備7億455万円、港湾整備4億5169万円、農業農村整備2億8255万円、漁港整備1億9417万円、災害復旧1億1646万円など投資的経費に23億839万円を投資することができました。

この結果の報告を通じ、町財政の実情についてご理解をいただき、今後の町政運営により一層のご協力をお願いします。

歳入総額 92億5698万7千円



行政用語の解説1

■実質収支
歳入歳出差引額から翌年度へ繰り越すべき財源を控除した決算額

■投資的経費
投資的経費は、生産的経費ともいわれ、これに分類できる性質別経費としては、普通建設事業費、災害復旧事業費、失業対策事業費があげられる

自主財源は16.3%

歳入では、町税や分担金及び負担金などの自主財源が15億1030万6千円、地方交付税や町債などの依存財源が77億4668万1千円です。町の財源には、町税などの自分たちで収入を得る「自主財源」と、地方交付税などのように国や県などから交付される「依存財源」の2種類があります。自主財源が多いほど、自主性が高いまちづくりができます。本町の財源に占める自主財源の割合は16.3%でした。